

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ 部分は外部評価の調査項目です ）

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ありのままのその方を受け入れて、心豊かに生活していただけるように「受容・傾聴・共感」の理念をつくっている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの最中やカンファレンス等を通して理念にそったものが意見交換している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示。ご家族へは入居前の相談時に説明、また運営推進会議を通して地域の方へ説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開所時にご近所の方にホームの内覧、チラシの配布を実施。日常の挨拶や自治会活動等を通して交流がある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や子供会の行事に参加し、特に利用者は子供とのふれあいを楽しみにされている。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議のなかで役員の方と情報交換はおこなっている。		情報交換の内容を発展させ、私たちができる講習会など地域に役立つことを検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を再確認し理解を深め、指導されたことは改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム側の報告の後、参加者からの質問や意見、要望など聞き、話し合い、それらを検討し役立て、次の会議で報告している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特定非営利活動法人久留米市介護福祉サービス事業者協議会グループホーム部会事務局として活動中。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後見制度の対象となりうる方の入居に伴い、学習会を開き、実際に活用することとなったのでその経過を職員にその都度伝達して理解が深まった。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういことが虐待になるのか学習会をもち、理解を深めている。		法的な知識は周知徹底できているとはいえないので、学んでいきたい。

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を提示しながら理解されるまでわかりやすく丁寧に説明し、遠慮なく意見を言える雰囲気づくりにこころがけている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の利用者とは話をする時間を作って、日頃から何でも話せるような関わりをしている。また、そこで出た意見などは全職員に伝達し、改善すべき点があればすみやかに対処している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	新聞の発行や定期的に面会にみえるご家族にはその際に、面会にみえないご家族には状況に応じて電話で報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に第三者の苦情連絡先を重要事項説明書で説明している。ご家族が来訪時には管理者やリーダーは話をする時間を設け、意見や不満などがあればすみやかに対処している。また、意見箱を玄関に設置している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がいつでも意見を言えるようコミュニケーションを常日頃からこころがけ、出された意見や提案は些細なことでも(意見を出すことの大切さ)検討し、反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に合わせて勤務表作成時等に人員や時間帯の調整を職員の同意のもとおこなっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の要望等を可能な範囲で受け入れ離職を最小限にしたり、新入職員が利用者になく馴染み、受け入れてもらえるような関わりをしている。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用面接時に就職を希望する動機づけを最も大切にしているので実際60歳代の職員もいる。また希望や要望を聞き、モチベーションを高めて働ける環境づくりをはかっている。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に基づき、自分や自分の家族にしてほしくないことはしない、自分の家族を入れたいホームをめざす、ここで働いていることに誇りがもて後悔しない仕事をするをモットーに管理者は模範となるような姿勢で職員教育に取り組んでいる。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がすすんで研修に参加することや資格をとることならびに勤務年数、勤務実績に応じて研修会への積極的参加を支援している。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特定非営利活動法人久留米市介護福祉サービス事業者協議会グループホーム部会事務局の責務として同業者との交流会や学習会を主催している。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	こちらから職員に声をかけたり、気兼ねなく職員が声をかけやすい雰囲気づくりをし、いつでも相談事についている。また会議のあとのお茶会や親睦会を実施し、できるだけストレス解消ができるようにしている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務実績や勤務態度を見極め、資格取得のすすめや研修会への参加を促している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	私たちは利用者の支援者であることを認知症の程度に応じて理解していただけるように信頼関係を築く努力を重ね、理念に基づいて利用者の内面を受け止めている。(利用者が安心して思いを表出できるような表情、しぐさ、ゆったりとした会話で接し、いつでも気がねせず頼りになる存在になるようかかわっている。)		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の都合を確認して時間を気にせず話ができる時間設定をし、何でも話せる雰囲気作りをこころがけている。また、迷いや不安、聞きそびれたこと、不明な点など生じたら何度でもご家族が納得されるまで話を聴くようにしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	思いやニーズを把握したうえで、長寿介護課の職員に相談をもちかけ解決を図ったことがあり、他との連携は大切だと考えている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新入居の方にはご家族からの情報を大切に、全職員がさりげなく意図的に見守り、本人が関心や興味を示すものを察知し、生活が楽しいものになっていくように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、利用者が得意なことなどを職員に教えていただく機会を設け、一緒に喜びお礼を述べると、とても幸せそうでいきいきとした表情をされる。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一例として看取りのときにはご家族が24時間いつでも自由に寝泊りできるよう部屋や食事の提供をし、ケアの一部をともに行うなどしてご本人を支えあう関係を築いた。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時に利用者のご家族の関係を把握し、より良い関係が維持できるよう自由な面会を設定している。また行事の際にはご家族を招待し、利用者と楽しく過ごせるよう支援したり、遠方のご家族には、電話(本人とも会話)や写真等で利用者の日常をお伝えしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知り合いの方の訪問もあり、時間を気にせず楽しく過ごせるよう支援している。希望があれば墓参りや知人のお見舞い等に同行している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	つねに利用者間の人間関係には注目し、より良い関係が継続できるよう介入している。時には喧嘩をされることもあるが人間関係が構築されている者どおしの場合は見守り、自分たちで仲直りできるよう支援している。新入居者に関しては、皆のなかに入っていけるよう介入している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	該当なし。(看取りをしたご家族とは、今も交流が続いている。)		今後、このような状況になった場合は、関係を継続し支援していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やその後の生活のなかで本人の要望の把握につとめている。(ゆっくりとおしゃべりをする時間をもうけたり、日常的になにげない言動や表情を大事にしている。)		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時本人やご家族、紹介先の事業所からの情報収集につとめ、日頃の支援に役立てている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員どおしでの情報交換、共有化をはかり、ちょっとした気づきも大切に、日々の変化を見落とさないようにつとめている。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日接するなかで本人の思い、要望を把握し、ご家族とは面会時や電話連絡等でそれらの把握につとめ、職員の意見も取り入れながら個性をもたせている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化に対して本人やご家族との話し合いや職員間でカンファレンスを持ち、現時点に応じた計画を立案し実行するが、日々の変化する状況に対応した計画の場合、介護計画書でなく連絡ノートを活用することがある。		介護計画は書式にのっとり作成する。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時に全職員が記録物を読み、状況の把握をし情報を共有している。		介護計画の実施に対する評価を記録することに欠ける点があるのでこれからはそこを強化し、計画の見直しに役立てていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やご家族のニーズの把握につとめ、できる限り対応できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方は御自身の趣味活動を利用者の方に紹介したり、ボランティアによる演芸会、消防署との避難訓練など地域資源との協働をはかっている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の段階では必要性が生じていないので活用していない。		いつでも対応できるように普段から連携を図っていくことが必要だと認識した。

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	後見制度の対象となりうる方の入居に伴い、利用者にとって最善の状態になるように地域包括支援センターの職員と連絡や話し合いを重ねたことがある。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に病歴を把握し、本人やご家族の意向にそって、希望された方には、かかりつけ医の受診を支援(看護師が同行)している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい専門医と開所当時から連携をとっており、ご家族に相談し、必要時受診したり、医師から職員へ認知症に関する学習会を受けたことがある。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	開所当時から職員に2名看護師がいるので、健康管理や病状の観察、職員への伝達は習慣化している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は看護師は医療関係者と連携をとって情報提供書を提出し、入院後は、お見舞いに行った際に主治医や担当看護師から治療経過をその都度尋ね、ご家族とも相談し、退院の見当しを立てている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人が元気な時にどう最期を迎えたいと言っておられたか、またどうあれあば余命をより良く過ごせるのかをご家族や医師と看護師で話し合いを繰り返し、また職員間でもカンファレンスもち、方針を共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまで2例看取りを経験したが、看護師がリーダーシップをとり職員へ教育し、医師との連絡を密にとり、病院で最期を迎えるのとは異なる家庭的な雰囲気の中で、ご家族の気持ちを汲み取り、本人の安楽と安心を大事にしてケアにあたった。この2例は高度の医療行為を必要としなかったので看取ることができたが、それが必要な状況で本人やご家族が希望される場合は迷わず医療機関への入院を選択する。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの例では病状の進行に伴う入院が数例ある。その際は医療関係者と連携をとって情報提供書を提供し入院時には同行し、利用者の不安の軽減につとめ、入院後は職員が交替でお見舞いに行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	便尿失禁時は、他の利用者に気づかれないよう、また本人も羞恥心や戸惑いを生じないようにさりげなく声かけしトイレへ誘導をしている。他のことでも失敗したことを気まずく思ったりしないよう言葉かけに配慮している。記録物については第三者が無断で閲覧できないよう管理している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の性格や思いの表出の仕方を把握し、その人に応じた対応をしている。選択肢を与えるのではなく、希望を引き出すような働きかけにつとめている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の望んでいることを把握し(自分で言われない方には親しく会話をもちかける。)、希望にそった支援をしている。起床や就寝の時間は自由で、リビングや居室を自由に行き来してもらっている。ただし、遠出の外出を希望された場合、スケジュール(病院受診など)によっては、希望にそえないこともある。(その場合は、理由を説明し、後日実行している。)		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	いきつけの美容室がある方は本人が希望した際に送迎している。また身だしなみやおしゃれは利用者の状態に応じて、支援(みだしなみや衣類の選択ができる方は本人にできるだけしてもらい、不十分なところを支援)している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを尋ねて提供したり、嗜好に合わないものは別メニューを提供することが習慣化している。(厨房に利用者別で嫌いな食べ物の一覧表を掲示。)利用者のADL状況や準備や片付けが得意な方には、職員と一緒にしてもらいお礼を述べている。食事は利用者とは話をしながら摂っている。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は利用者と買い物に出かけ購入したり、お茶の時間では好みの飲み物を尋ねて提供している。アルコール類は、本人の希望とご家族の意向を聞いて個人別にそろえ、晩酌を楽しまれている方々がいらっしゃる。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握(トイレに経時的な排泄チェック表を掲示)し、便意訴え時以外でも定期的にトイレ誘導している。夜間オムツの方は日中の活動レベルに合わせてパッドに替えたり、それが困難な方には定期的にオムツのチェックをしている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居当初は夕食後に入浴されていた方がおられたが、朝風呂を経験され、それがすっかり気に入られ今は夕食後に入浴される方はいない。入浴は希望で毎日入られる方がいる一方、好まれない方には職員の連携や他の利用者の促しで入っていただくようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床や就寝時間は決めておらず、就寝までの時間はゆったりと団楽の時間をもうけ、個人の好む時間に休んでもらっている。不眠や夜間徘徊のみられる方には日中身体を動かすように支援したり、ケースによっては、ご家族に相談し医師の診察を受け薬を処方してもらうこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの誕生日に誕生会、プレゼントは事前に利用者にとりあげなくほしいものを尋ねたり、職員で話し合っ決めて。お祝いの食事も好物を提供。日々の生活では利用者に応じて(電子ピアノの演奏で合唱や毎月の手作りカレンダーの数字かきや絵の作成、調理の手伝いなど)支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や通帳を自己管理されてる方や管理ができなくても一回の買い物時には自分で支払えるようあらかじめお金を渡したり、利用者の状態にあわせて支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いきつけの美容室への外出や買いたい物があれば外出の支援をしている。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間スケジュールを立て、お花見や外食、文化施設の見学などを実施。個人の希望でお墓参りやご家族との外出や旅行等の支援をしている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話機を操作できるの方はいらっしゃらないが、ご家族の声が聞きたいと希望された時や職員がご家族へ連絡する際に電話を渡して話をしてもらったり、年賀状や暑中見舞いのはがきを書いてもらっている。(書けない方は絵を描いたり工夫)		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はないので入居時にご家族へいつでも連絡なしに訪問してくださいと説明。面会時には居室やリビングなど好きな場所で過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームのモットーは「自分や家族、大切な人にしたくないことはしない」なので拘束がもたらす心身の弊害を理解し、身体拘束しないケアを実践している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関の施錠。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が今どちらにいるかは常に把握し(職員とおして声かけ)、利用者を見渡せる場所で記録を書いたり、見通しがきくように物の配置を工夫している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて職員間で話し合い、物の配置や保管場所を考えている。新しい利用者が加わったら、状況を見て場所を変更したりしている。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止について職員間で話し合っている。(利用者の状態によって起こりやすいことを検討し対策を講じている。)		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	誤嚥や窒息、嘔吐、意識障害等の際の手当てについて一通りの教育を看護師によりおこなっているが、定期的にはできていない。		定期的に再教育、デモンストレーションをおこなう。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、避難訓練や消火器の使い方のデモンストレーションを全職員に実施。災害緊急時の避難場所は自治会を通して把握し、地図を掲示。地域の方とは日頃から親しく接しているが、直接災害時の協力をお願いしたことはない。		地域の方に協力してもらうにはどうしたらよいか話し合う。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時や入居後の心身の状態を日々見極め、リスクについてご家族に直接または電話で説明し、安全を優先しつつ病院ではないので利用者が生活を楽しめるよう対策を講じ、ご家族に経過を報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居時にご家族や医療機関からの情報収集、実際の体調を看護師で把握し、日常では1日2回のバイタルサインの測定時に会話し身体に触れ体調の変化の観察、また入浴介助者は全身の皮膚の観察をし、気づいた点は看護師に報告。必要時医療機関の受診や職員へ注意して観察することやケアについて伝達。看護師も朝、全利用者の体調や食事摂取状況の観察をルーティン化している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにある薬の説明書の内容を読み把握。薬の変更時や新たに処方された場合は看護師が職員へ報告(連絡ノートも活用)し、副作用の具体例(足元のふらつき等)を伝達し、身体の変化の観察につとめ、必要時医師やご家族に報告している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事には毎食野菜や根菜類、海藻を取り入れ、水分については口渇時以外に起床、毎食、午前午後のおやつ時、夕食後の団樂の時間に摂ってもらうようにしている。また午前の体操の時間にはおなかのマッサージを取り入れている。排泄に関しては起床、食後など便意を催しやすい時間をみはからってトイレ誘導をおこなっている。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアが全身ケアにつながることを職員が理解し、利用者のADLに応じた支援をおこなっている。義歯は寝る前には必ずし洗浄、消毒をルーティン化している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴や現病歴、医師の指示、ご家族の意向(病気はあるけれど本人の好きなものを好きなだけ食べさせてほしいなどをふまえ、利用者の嗜好や嚥下、咀嚼状態をみて、栄養を考慮し、個人別にメニューや食事形態をかえて提供している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事の前や外出から帰所後は、緑茶うがいと手洗い(ペーパータオルの使用)の励行。排泄後の手洗いの支援、また排泄介助時は使い捨て手袋の着用。排泄物や血液、体液のついた物や場所は次亜鉛酸ナトリウムによる消毒。感染症流行の時期の前には看護師による職員教育。インフルエンザに関してはご家族の同意のもと、ワクチン接種をしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は食器洗浄機による熱湯洗浄。包丁、まな板は使用前後にアルコール消毒。ふきんは次亜鉛酸ナトリウムによる消毒。食材は生ものは使い切る分を購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の花壇に季節に応じた花を植え、観葉植物を配し、清掃につとめている。		場所柄初めての来訪者には少しわかりづらい場所があるので、親しみがもてるような看板(掲示物)をつくりたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がテレビを見ているときはリビングの清掃は掃除機でなく箒を使い、テレビが楽しめるように配慮。リビングが南向きで日差しが強い時期はカーテンの利用。構造上(縦長の建物、床の材質)家庭的な雰囲気欠けるので装飾品や季節の草花などでこちよく過ごしていただけるようにしている。		

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよい窓辺に肘掛け椅子を配置。朝日のあたる時間帯や昼間、利用者が過ごされる。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の趣味のもの(習字や絵など)を配置。仏壇などを入居時、持参されている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後は窓を開け(寒い時期は利用者がリビングに移動されたあと)、換気をはかっている。掃除の時も同様。玄関は、夏は網戸にしている。常に温度や湿度には配慮し乾湿計を確認する習慣ができている。また乾湿計だけでなく体感温度も大事にし、空調や加湿器・ぬれタオルの利用などその時々に応じた対処をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの床や手すりの設置、家具類の配置で転倒防止をはかり、ADLに応じて車椅子を活用している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	介護理念に則って、例えばひとつのレクリエーションの中でも、各自が得意なところを担当してもらい、意欲の向上につとめたり、好きな作業に参加してもらい、失敗やまちがいがあっても否定せず、お礼を述べるようにしている。		もっと個人の好きなことや潜在能力を引き出せるようにかかわっていく。
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や建物の周囲の花の植え替えに参加(花の苗と一緒に買いに行く)してもらっている。また天気の良い日は折りたたみ椅子やテーブルを出して日光浴やお茶の時間、時には、バーベキューや餅つき、運動会などを開催している。		野菜づくりをして自分たちで育てたものを収穫し、食べる喜びを味わってもらいたい。

番号	項目	取り組みの成果 （該当する番号欄に 印をつけること）	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

グループホームいちょうの杜合川（そよ風）

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない